

カキの害虫「フジコナカイガラムシ」の 発生最盛期を予測しました

1 発生最盛期の予測

岐阜市則松及び美濃加茂市山之上に設置したフェロモントラップの雄成虫誘殺ピークを起算日とし、JPP-NETの有効積算温度計算シミュレーションを用いて、第1世代1齢幼虫の発生最盛期を予測しました（表）。

表 フジコナカイガラムシ第1世代1齢幼虫の発生最盛期

岐阜市		美濃加茂市	
令和4年	6/10	令和4年	6/26
直近10年平均	6/19	直近7年平均	6/26

注）5月30日時点の予測のため、今後の気象条件によって発生最盛日が前後することがあります

2 防除対策

フジコナカイガラムシの卵、2齢及び3齢幼虫、雌成虫は白い「ろう状」の物質に覆われ薬液をはじいてしまうため、その時期の防除効果は期待できません。そのため、ろう状物質に覆われていない1齢幼虫の発生時期を把握して防除を行うことが重要です。特に第1世代は孵化期が揃いやすいため薬剤防除に適しています。



図1 雌成虫
(ろう状物質に覆われている)



図2 1齢幼虫



図3 排せつ物に発生したすす病

- ・農薬の使用にあたっては、最新の登録内容を確認し、適正に使用してください。
農薬登録情報提供システム
<https://pesticide.maff.go.jp/>
- ・当所のホームページに発生予察情報、病害虫調査データなどを掲載していますのでご活用ください。
岐阜県病害虫防除所
<http://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>